道徳だより 2

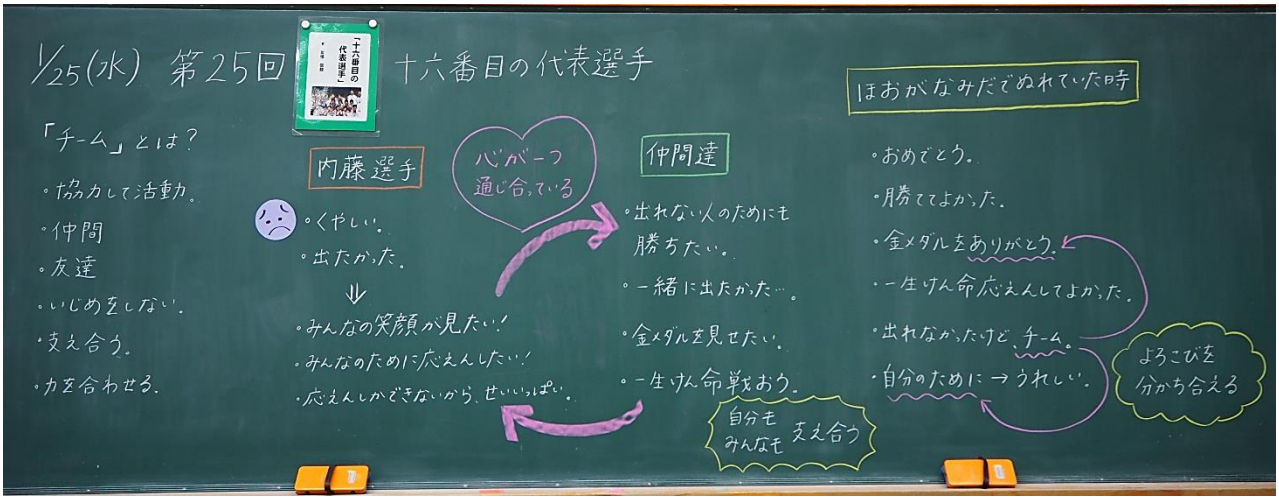
１／２５（水）

「十六番目の代表選手」の授業から

「間接的・精神的な協力によって支えられ、物事を成し遂げられるよさに心を動かす。」というねらいで授業を行いました。

怪我で北京オリンピックに出場することができなくなった内藤選手の気持ちやグラウンドでプレーする仲間達の思いについて考えました。

終末では、「チーム」とは、一緒に試合に出られなくても、お互いの心が通じ合い、一つになることである気付き、「チームのために自分にできることをする大切さ」や「チームで喜びを分かち合える素晴らしさ」に心を動かしていました。



児童の振り返りより・・・

協力や心を一つにすることでチームと言えることが分かった。よろこびを分かち合えればいいチームになる。自分もみんなも協力すれば楽しいチームにもなれる。

チームは心が通い合っているということが分かった。これからは仲間を思えるようにしたい。

みんなのことを分かちあえるチームがよいチーム。出れなくてもチームだからよろこびを分かちあえる。

改めてチームの良さを知った。その場にいなくても一しょに同じようによろこびを分かち合えればチームの一員だということも分かった。

協力しあって相手のことも自分のことも思いあってみんなで支えあうチームにしていきたい。